

# 成果発表

各グループのまちデザインをご紹介します。

①課題 ②提案の概要



店舗の特徴を生かしつつ開放的な軒先に改修

## グループD

### 寄居町商店街の新たな可能性

- ①バイパスの開通に伴い商店街への交通量が減少し、店舗の郊外化が進み、商店街の空洞化や空き店舗が増加している。
- ②市街地の商店街の景観を残しながら、空き家・空き店舗を活用するデザイン。店舗内を見やすく、開放的な軒先に改修。店舗ごとの特徴を生かしつつ、統一感のある商店街で集客を図る。

## グループE

### 橋上美術館

～寄居町の新たなインフラとして～

- ①来訪者に町の魅力を伝える目的地がなく、通過点となっている。
- ②人の往来のある寄居駅に美術館を合築することで、観光客が町を目的地として訪れるようになる。また、町の特徴が伝わる展示を行い、魅力の発信や市街地への回遊を促進する。



町の魅力を伝える新たなインフラ



正喜橋の袂から玉淀河原へ

## グループA

### 暮らしと資源を結ぶ

～新たな中央通り～

- ①駅前の中央通りが整備され、Yottecoを拠点とした賑わいが生まれ始めたが、市街地全体への活性化には至っていない。
- ②玉淀河原と中央通りを生かし、町の自然と暮らしがみえるようにするデザイン。正喜橋の袂から玉淀河原へアクセスできるようにし、利便性を高め、河原でのアクティビティによる集客および魅力発信を行う。

## グループB

寄ったり ゆったり 集まったり

### YOTTARI(よったり)

- ①町に拠点が少なく、滞在できる場所が少ない。
- ②サイクルツーリングに適した町環境を生かすためのデザイン。サイクリストと町民が集う新たな拠点づくりに加え、移動手段にレンタサイクルを提案。市街地を周遊しやすくし、活性化を図る。



サイクリストや町民が集う新たな拠点



交流の場として活用される玉淀館

## グループC

### 町のアートを広げる玉淀館

- ①荒川の美しい景観を望むことができる玉淀館が活用されていない。
- ②町民にも広く認知されている玉淀館に着目。玉淀館をリニューアルし、アートを通じた交流の場として活用。玉淀の美しい景観を守り、アートという新しい文化を取り入れたデザイン。



プレゼンテーションには多くの方が訪れた

## まちづくりの

### 「タネ」を果実へ

町では、中心市街地活性化事業完了後、新たな寄居町へ生まれ変わる絶好のタイミングに、官学連携という貴重な機会をいただきました。

このプロジェクトをきっかけに、さまざまな視点からの意見を取り入れ、まちづくりに関する議論が進み、さらなる活性化につながることを期待しています。

学生がmaidした「タネ」を育て、大きな果実とするため、今後も継続して、プロジェクトを通じた交流、協働を実践していきます。

☎ プロモーション戦略課

☎ 581-2121 内線432